



## 2009年、新しい年を迎えて

院長  
榎本 和

21世紀になり、早くも9年目を迎えます。

2004年には精神保健医療福祉改革ビジョンが出され、今年で5年を経過しました。国は国民の精神障害に対する普及啓発、精神医療体制の再編成、地域生活支援体系の再編確立などを掲げ「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的な政策を打ち出しています。その一端としての自立支援医療の実施、社会復帰促進事業などがはじめられ長期入院していた方たちが少しずつ地域生活へ移行することができました。

また非定型精神病薬や抗鬱剤の開発にともない、投与される薬剤の量、種類ともに減少し、必ずしも入院を必要としない場合も増え、県内にもメンタルクリニックがたくさん開設されました。これにより精神科医療への一般の方達の偏見も減り、精神科受診への敷居も低くなったと思われま

す。当院でも21世紀に入り、新館(C館)の建設。B館の改装。さらに福祉ホームB型「あしび」の開設。2008年4月には介護保険適応病床80床のうち48床を医療療養病棟に転換し、9月には、保育所が竣工(建て替え)しました。

2006年3月より禁煙運動を開始し、職員の心配するなか2008年10月1日から、敷地内全館禁煙が実現しました。特に閉鎖病棟の患者様の禁煙されている姿には私たち職員一同、感動さえ覚えました。

本年は世界的な経済危機を迎えると言われています。我が国の財源の減少による新規事業の削減や、国の施策の変更などが行われる可能性があります。これらの外部状況を把握しながら、私どもは当院の理念とする「優しい医療・楽しい職場」の実現に向け職員共々努力する所存です。



日本医療機能評価機構  
認定シンボルマーク

# TOPICS・EVENT

## こころの健康フェスティバル

2008年11月15日(土)、南知多町総合体育館にて「平成20年度知多半島地域こころの健康フェスティバル」が行われました。当日はあいにくの天気でしたが、約400名もの来場者がありました。

当日のプログラムは午前(ソフトバレーボール大会)・午後(講演会)の二部構成で行われました。ソフトバレーボール大会は当事者中心のチームで11組が参加し、トーナメント方式で行われました。各チームともこの日のために練習してきた力を発揮し、熱戦が繰り広げられました。

大会終了後、体育館前では模擬店でうどん・カレーライス・みたらし団子などが販売され、日本福祉大学の大道芸サークル「Boochi Box」によるパフォーマンスが繰り広げられるなど、大勢の来場者で盛り上がりを見せていました。体育館内も授産施設の自主製品のパンやジャム、デイケア作品の販売や展示が行われ、喫茶コーナーではお茶をしながら和む来場者の姿も見受けられました。ソフトバレーボールの選手はもちろん、応援席で応援してくださった方々は皆、とても楽しいひと時を過ごされていたようでした。

午後は豊浜中学校吹奏楽部による「天空の城ラピュタ」「崖の上のポニョ」など全5曲の演奏から始まり、続いて午前中のソフトバレーボール大会の表彰式が行われました。表彰されたチームはメンバー同士で喜びを分かちあい、惜しくも負けてしまったチームはバレーボールを楽しむ仲間として盛大な拍手で祝福していました。



表彰後は京都ヘルメス研究所所長・京都大学名誉教授の山中康裕氏による「児童・思春期の子どもとこころ」と題した講演会が行われました。写真を使った講演は視覚的にもわかりやすく、参加者は熱心に聞き入り、たびたび笑い声がおこるような和やかな雰囲気で行われました。

今回知多半島地域こころの健康フェスティバルに参加して、当事者の方々が生き生きとした表情でソフトバレーボールをしている姿を見て元気をいただきました。また精神障がい者の方たちを地域で大勢の人達が支えていることを感じました。

(医療福祉課 伊東 佑希子)

## ソフトバレーボール4連覇!

11月15日(土)、入院患者様5名、外来患者様7名、職員7名の総勢19名。「検査課の嵐を呼ぶ課長による突然の雨」といった小さなアクシデントがありましたが、故名誉院長のお名前から頂いた「クニちゃんズ」、予定通りいざ出発しました。

普段の作業療法の中での練習では、活動における対人関係のスキルをあげる事、社会生活を送るための体力向上や生活リズムの獲得、趣味の獲得により、その人それぞれの生活に反映させて、より良く

生活できる事を治療目的として、楽しむ事を第一に活動しています。しかし、楽しむ事を第一にとはいえ、この年1回のこころの健康フェスティバルは、楽しみながらも一生懸命練習している患者様にとっては、大きな目標です。時には、全日本女子バレーの柳本ジャパンを彷彿させる「ピシバシ練習」もありますが、大会という目標に向かって殆どの患者様が継続的に参加されています。プレッシャーに押し潰されそうになりながらも、患者様同士で励ましあい、時にはスタッフと相談しながら、当日参加できるようになった方ばかりです。



今回も前年度優勝チームということで選手宣誓という大役を任せられ、外来患者様が無事に全うする事ができました。

試合に関しては、第1試合は、「いかにも経験者!」という、年齢を感じさせない男女ペアを主軸に持つ常連実力派チームとの対戦でしたが、相手に「やっぱり強いなあ…」とうならせる程、余裕をもって勝つ事が出来ました。第2試合は大差がついたため、監督の采配で選手総入れ替えをしたところ、あれよあれよと追いつかれ…逆転され、「もうだめだ…」と諦めかけた雰囲気がありました。しかし外来患者様と看護師の完璧なワンツー攻撃や見事な連続サービスエース、Iさんのジャンピングアタック?(禁止です!)という全員攻撃で、どうにか再逆転して決勝に進むことができました。決勝では、相手の美人セッターに男性陣が一瞬心を奪われそうになりましたがすぐに立て直し、結果として「4連覇」という偉業を成し遂げることが出来ました。選手の皆さんも一度はコートに立つことが出来、チームの目指す「全員バレー」もしっかり達成することが出来ました。

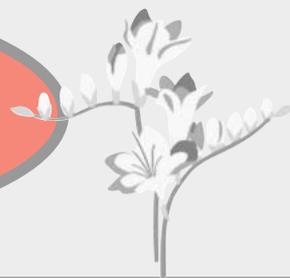
ただ、表彰式の優勝チーム挨拶の中で、恒例のどこかで聞き覚えのある、監督の「感動した」「チョー気持ちいい」に続く名言「なにもいえねえ」が出るだろうと期待していたのですが、監督は「想定外に会場が厳かだもんで本当に何も言えなかった…」とのことで、そのことが今回唯一の心残りです。

今後はこの大会の五連覇はもちろん、県大会を勝ち抜き、北信越大会に出場できることを大きな目標として患者様、職員共々頑張っていきたいと思います。

当日、応援として選手を支えて頂いた入院患者様や病院スタッフ、出場までに御尽力いただいた方々には心より感謝の意を表します。有難うございました。

(リハビリテーション課 梶 佳稔)

## デイケアセンター フリージア



デイケアセンターは1994年5月に開所し今年で16年目を迎えます。愛称を「フリージア」と名づけ、その花言葉でもある「期待、希望、感受性」を大切に利用者様へのリハビリテーションを実施しています。

現在、「入院医療中心から地域生活中心へ」の方向性のもと、デイケアが担う役割はとても重要と考えています。実際の活動内容としても、個別と集団を有効に活用して実施しています。個別支援としては「個別面接」による利用者様のニーズの把握や目標の再確認を行ない、集団支援としては「各集団プログラム」を適度な協調性と自己主張の場として活用しています。最近では社会資源を活用し、就労準備や健康増進に繋がるような活動も行ない、仲間意識の芽生えや責任感を高め、利用者様の自主性や意向・希望に沿ったリハビリテーション支援ができるよう展開しています。また季節にちなんだ行事(初詣、花見、七夕、旅行、クリスマス等)を行なっています。

昨年のでんてん祭り際には「カフェ&ギャラリー」と称して喫茶店を行ない大盛況でした。お客様をお迎えする立場になることで様々な新しい発見があったよ



うです。それぞれの体験は利用者様にとって実りある経験になっており、その人らしい地域での取り組みが出来るよう活動しています。

デイケアのスタッフは医師1名、看護師2名・作業療法士2名・精神保健福祉士2名・臨床心理技術者1名の多職種チームで構成されています。職種のみならず年齢層も20代から50代、若手から中堅・ベテランまで多様です。この多様なチームが「目的の共有」、「情報の共有」、「相互理解に基づく役割分担」をしながら利用者様の支援を行なっています。



今後も利用者様の希望が叶うよう、またその期待に応えられるよう、感受性を豊かにし、地域生活支援を行なっていきますのでよろしくお願い致します!

デイケア課 朝倉 起己

◀カフェ&ギャラリーの様子

### 編集後記



2000年より皆様にお届けしております「WA!」も10年目を迎えました。当院と地域を繋ぐ架け橋として、これからも様々な話題を掲載していきますのでご期待下さい。

今号より広報誌委員として参加させていただきます私は、今まで写真撮影で参加していました。

表紙や行事の写真は、季節、文章との関係を考慮し、どれにしようか悩みに悩んだ末、これだ!と思うものを選んで

います。静けさ、躍動感、表情豊かな写真をお楽しみ下さい。

今年のカラーは、未来に夢を託し、新しい緑の広がりや家族の和、愛情と恋愛の運気をアップさせるピンクです!雇用問題がどんどん深刻化する不況の世の中、私たちが自分の仕事に誇りが持てる職場をご紹介します。皆様を和ませたいと考えています。

(H.M)

# 太陽の光に合わせられず 寝坊してしまうという 睡眠障害

日常診療で出会う不眠としては、特定の原因はないが眠れない状態、あるいはうつ病などの疾患の症状のひとつとして現れる不眠が多数を占めますが、中に不眠を主症状とする疾患としての睡眠障害があり、そのひとつに睡眠覚醒時刻を調整する機構が正常に機能しないために起こる「概日リズム睡眠障害」があります。

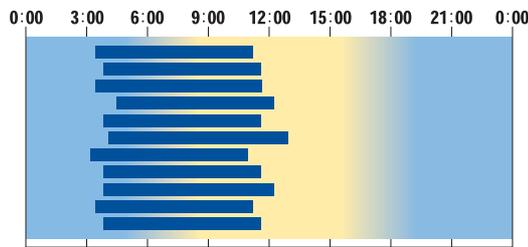
地球上に生命が誕生して以来、すべての生物は1日24時間の周期で活動を営んでいます。明暗の交替をなくした常に暗い(または常に明るい)環境に置かれると、生体リズムがフリーランを起こし、大体24時間の“概日リズム”で活動するようになります。ヒトを洞窟に長期間隔離した実験では、平均で約25時間の睡眠覚醒リズムで過ごすようになり、体温、ホルモンなども同じ周期で変動するようになることが観察されています。しかし、この

状態では毎日1時間ずつのずれが生まれることになり、日の光の元での生活ができなくなってしまう。そこで、生物側が折り合いをつけ、体内の時計を日々時刻補正して太陽の周期に合わせることで、地球上での生活を維持することに成功しています。その補正機能がうまく働かないヒトが概日リズム睡眠障害を持った人ということに

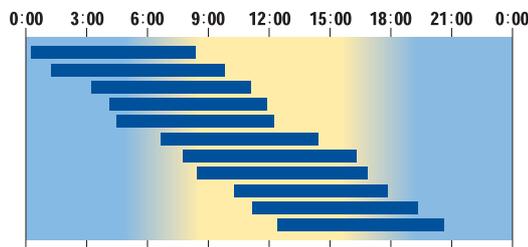
なります。その代表に、①睡眠相後退症候群と②非24時間睡眠覚醒症候群と呼ばれる疾患があります。①は、昼夜の時間帯に生活を合わせきれず数時間遅れたまま、しかし、それ以上は遅れないように何とか持ちこたえている状態、つまり、明け方まで寝つけず昼頃(時に夕方)まで起きられない極端な宵っ張りの朝寝坊となってしまいます(図1)。②は、25時間リズムが全く補正されないために、毎日1-2時間ずつ睡眠時間が遅れてゆき、完全に昼夜逆転したあと一巡して一旦戻っても再びずれてゆくことを繰り返すフリーラン状態の寝起きとなってしまいます(図2)。このように、太陽に背いて寝起きしては遅刻や欠席の常習犯となってしまうか、辛うじて起きられたとしても日中の眠気のために勉強も仕事もままならず、いずれにせよ社会から脱落してしまいます。年間10万人以上となる高校中退者のうちの相当数がこの疾患による可能性があるとも言われます。

ここまで読み進めてきて思い当たる節のあるあなた、概日リズム睡眠障害に限らず、夜の不眠から昼の過眠をもたらす様々な睡眠障害は、社会生活への影響も大きく、決して侮れない要注意の病態です。

診療部 安藤 勝久



〈図1〉睡眠相後退症候群



〈図2〉非24時間睡眠覚醒症候群



共和会理念

## 『優しい医療・楽しい職場』

- 私たちが目指す『優しい医療』とは!
- 患者様に安心と満足を提供する医療
  - 良質且つ効率的な医療の提供
  - 患者様へのサービスの充実
- 私たちが目指す『楽しい職場』とは!
- 毎日の出勤が楽しくなる職場
  - 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
  - 職員の満足が患者様へ反映される職場

## 基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報は保護されます。
- 5.あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。

病院長 榎本 和



特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

## お知らせコーナー

### ●第6回 共和病院 認知症勉強会

- 日 程/1月17日(土)
- 場 所/共和病院C館 4階 多目的ホール
- テーマ/介護の難しい認知症について
- 時 間/13:30 ~ 16:30

### ●第11回 共和病院 地域医療フォーラム

- 日 程/6月20日(土)
- 場 所/大府市勤労文化会館

※詳細は、追って院内掲示等でご案内いたします。